

福島大学 教職大学院案内

大学院教職実践研究科教職高度化専攻



ふくしまの教育を支える ミドル・リーダーを育てる

福島のエデュケーション課題を認識し、新たなエデュケーションの探究により
未来を創造する教員を養成する大学院

- ミドル・リーダー養成コース
- 授業デザインコース
- 特別支援教育コース



基本理念

地域課題及び教育課題に果敢に挑む イノベーション人材の養成

福島県教育委員会との連携を強め、社会的・地域的要請に応じていきます。



● 福島大学教職大学院の特徴

1

確かな課題意識と豊かな想像力と
着実な実践力をもって
教育課題に挑みます

教育を
めぐる
現状

グローバル化する社会の持続的な発展

誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現

教育デジタルトランスフォーメーション(DX) など

2

福島県の教育課題に応えるべく
**福島の未来を創造する
独自の教育を創出します**

福島の
教育の
在り方

「福島ならではの」教育の実現

「学びの変革」の推進

イノベーション人材の養成

3

理論と実践の往還を通して、
これからの教員に求められる
資質能力を育成します

ディプロマ・
ポリシー

- グローバルな視野とローカルな視点
- 専門的知識・技能
- 論理的思考力・分析力・表現力
- 学際性、俯瞰性、課題発見力
- 応用力、実践力、還元力
- プレゼンテーション力、コミュニケーション力
- コーディネート力、マネジメント力、課題解決力

● 理論と実践の往還

チーム学校を牽引する



「ミドル・リーダー」

学年・学校課題に対応する力

高度な教育実践力の修得



次の「ミドル・リーダー」

学校課題への意識を高める

学校での教育実践力の修得



次世代の「ミドル・リーダー」

学校課題への意識を高める



学校現場における課題と必要な理論をていねいにつなぎ、PDCAサイクルをベースとして、課題の発展的な解決を目指します。また、ミドル・リーダーとして、これからの福島における教育を支える「真に学び続ける教員」としての資質能力を育みます。

各コースの特徴

教職経験や自らの教員像と役割に合わせて、「ミドル・リーダー養成コース」、「授業デザインコース」、「特別支援教育コース」を選択します。

ミドル・リーダー養成コース

学年・学校経営課題への対応力を磨く



★ ミドル・リーダーを目指す方

教職経験概ね10年以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学年レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

授業デザインコース

基盤となる教育実践力を磨く



次 次のミドル・リーダーを目指す方

教職経験3年以上の方

1～2校で教職経験があり、様々な実践課題が見え始めた方で、さらに高度な実践力または学校マネジメント力を身につけたい方

※教職経験概ね10年以上の方も選択できます。

次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、多様な現職教員と交流することを通じて、教育実践の課題を総体として理解し、学校教員としての自覚を持ちたい方

特別支援教育コース

多様化に応える教育実践力を磨く



★ ミドル・リーダーを目指す方

教職経験概ね10年以上の方

自らの教育実践力(授業力、生徒指導力など)をもとに、学期、年間等の見通しを持ち、学部レベル、学校レベルの課題に対応する力や、学校マネジメント力を身につけたい方

次 次のミドル・リーダーを目指す方

教職経験3年以上の方

障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指し、学校マネジメント力または高度な実践力を身につけたい方

※教職経験概ね10年以上の方も選択できます。

次世代 次の世代のミドル・リーダーを目指す方

大学院進学を希望する学生の方

教員免許状(一種)取得見込みで、障害の重度化・重複化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す方

教育課程

カリキュラムは、「大学院基盤科目」、「共通5領域」、「選択領域」、「プロジェクト研究領域」、「学校における実習領域」に分かれています。また、理論と実践の往還を進める場であるラウンドテーブルに年2回参加・実践報告します。

科目領域 \ コース		ミドル・リーダー 養成コース	授業デザイン コース	特別支援教育 コース
大学院基盤科目		イノベーション・リテラシー		
理 論	共通5領域 必修20単位	現代的な教育課題への基礎対応力を形成 教育課程の編成・実施 生徒指導・教育相談 学校経営・学級経営 教科等の実践的な指導方法 学校教育と教員の在り方 福島の学校と教育課題		
	選択領域 選択10単位	学校改革領域 学校マネジメント科目 学校改革科目	授業改善領域 教科横断型授業改善科目 各科授業改善科目	特別支援に関する理論と実践領域 特別支援に関する理論と実践科目
理論と実践の往還		ラウンドテーブル		
実 践	プロジェクト研究領域 必修4単位	学校課題対応プロジェクト研究 授業実践高度化プロジェクト研究 特別支援教育実践プロジェクト研究 実践の省察 課題の明確化 解決法探索 計画実践 分析評価 報告書作成 自らの課題を明確にして必要な理論・方法を学び 方策を計画・実践して結果を分析・評価		
	学校における実習領域 必修10単位	★ 学校課題対応実習 (中堅現職学生) ★ 教職専門実習Ⅱ (中堅現職学生) ★ 学校支援実習Ⅱ (中堅現職学生) 次世代 長期インターンシップⅠ・Ⅱ (学部新卒学生) 次 教職専門実習Ⅰ (若手現職学生) 次 学校支援実習Ⅰ (若手現職学生) 次 教育実践高度化実習 (若手現職学生)		

教職大学院での学びのイメージ

1 年 生													2 年 生												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
共通5領域																									
選択領域																									
プロジェクト																									
学校における実習																									
- 教育課程編成実践研究 - 授業デザインの理論と実際 - 生徒指導の事例研究 - 福島の学校と教育課題Ⅰ													- 教材開発と教育方法の実践と課題 - 学校カウンセリングの事例研究 - 学校・学級づくりの実践研究 - 公教育の理念と教育改革												
主体的な学びで育成するための理論と実践													- 国語科授業デザイン論 - 生活科・総合的な学習の時間に関する授業デザイン論												
教育実践高度化プロジェクトⅠ													教育実践高度化プロジェクトⅡ												
ラウンドテーブル													ラウンドテーブル												
.....カンファレンス.....													カンファレンス.....												
分散型モデル													分散型モデル(学部新卒学生を除く)												
事前指導・マッチング																									

ミドル・リーダー養成コースの実習

- 教職専門実習Ⅱ**
学校参観・教育委員会の訪問や学校でのジョブ・シャドーイングをおこないます。
- 学校支援実習Ⅱ**
授業・学校行事等に参画しチーム学校のあり方を検討します。
学部新卒学生のメンターも務めます。
- 学校課題対応実習**
公開研究や校内研修の企画・運営に参加します。

時間割モデル					
	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

■ 理論 ■ 実践(実習等) ● カンファレンス

授業デザインコース(若手現職学生)の実習

- 教職専門実習Ⅰ**
先進的な研究校を参観します。
- 学校支援実習Ⅰ**
連携協力校の授業や学校行事等を支援します。
- 教育実践高度化実習**
連携協力校で授業研究・提案授業等を実施します。

授業デザインコース(学部新卒学生)の実習

- 長期インターンシップⅠ・Ⅱ**
教員の仕事を総体として理解するとともに、実践から課題を見いだします。

カンファレンス(週間・月間)への参加

現場での実習や支援を振り返って大学教員からアドバイスを受たり、学生や教員で事例検討をしたりします。



ラウンドテーブルへの参加・報告

5～6名の小グループで報告し討論することで、教育現場での実習や支援を省察し、次の活動へと活かします。県内外からの参加者を募り、大規模に開催します。



教員紹介



准教授 植田 啓嗣

専門 教育学・比較教育学

研究
テーマ 国際教育に関する研究、
アジア(特にタイ)の教育

世界の教育改革や教育開発に関する授業を担当します。世界のことを学びながら、日本の教育の意義や課題について一緒に考えていきましょう。



特任教授 太田 孝

専門 国語科教育学

研究
テーマ 高等学校の実践的な国語科
の指導法・学校のマネジメント・
教員研修

大学における学びを、その先の学び、生涯を通じての学びに接続することについて考察、実践、追究をします。



准教授 神山 真由

専門 教育行政学・学校経営論

研究
テーマ 1970年代前後の教員不足
に対する教員養成・採用・人
事政策

より質の高い教育を行うための教員政策、教員の働き方や教員養成の在り方などについて一緒に考えていきましょう。



特任教授 菅家 礼子

専門 体育科教育

研究
テーマ 質の高い身体教育

学ぶ喜びを味わいながら、人間存在の基盤である身体の可能性を開く体育授業の実現を目指して研究しています。



特任教授 小嶋山 宗浩

専門 特別支援教育

研究
テーマ 特別支援学校等における未
来に向けた教育環境の整備
の在り方について

障がいのある児童生徒等が、新しい時代に生きるための資質・能力を着実に身に付けるなど、それぞれの個性を生かした社会貢献ができるよう、実践を基にして研究を進めて行きます。



准教授 坂本 篤史

専門 教育内容・方法論

研究
テーマ 教師の学びを促す
授業研究のあり方

授業実践の分析と教師の学びについて研究しています。授業の事実から共に学んでいきましょう。



准教授 志賀 匡行

専門 学習指導・理科教育

研究
テーマ 学習内容の理解を深めるた
めの学習指導

教師が自らの指導力を最大限に発揮するためにはどうすればよいか、一人一人の「気づき」や「経験」をつなげ紐解いていきましょう。



特任教授 高野 孝男

専門 学校マネジメント

研究
テーマ 特別活動を中核に据えた学
級経営/カリキュラム・マネジ
メントと学校経営

学校、学級経営の充実のために、学校現場で抱える課題解決のための方策や校内研修の在り方、運営の仕方など、一緒に学び考えていきましょう。



特任教授 高橋 英子

専門 社会教育学・教育社会学

研究
テーマ 地域づくりと住民の
主体形成

地域づくりや地域の課題解決に取り組む人々の実践と学びに関心があります。つながりを育む社会教育の可能性を一緒に考えていきましょう。



教授 高橋 純一

専門 特別支援教育

研究
テーマ 感覚・知覚・認知の「多様性」
とその「理解」/幼児期・児童
期のアファンタジア

障害の有無にかかわらず、子どもの行動には必ず要因があります。認知能力の観点から、より客観的な教育支援について考察します。



教授 谷 雅泰

専門 教育学・日本教育史

研究
テーマ 明治期地方教育行政史/
デンマークの教育

公教育とはどうあるべきか、歴史や外国の事例から考えています。実践の基盤になる教育観を鍛えましょう。



特任教授 中野 真悟

専門 道徳教育・生徒指導

研究
テーマ 道徳科と各教科等を関連づ
けたカリキュラム研究

子どもたちが他者や集団、社会と関わりながらよりよく人生を生きていくために、教員は何かできるのかを一緒に考えていきましょう。



教授 鳴川 哲也

専門 理科教育・学校経営

研究
テーマ 現職教師の能力の高度化/
理科教育

予測困難な時代を生きる子供たちに学校教育は何を準備すべきなのか。教育の未来を力強く切り拓こうとしている皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



特任教授 野木 勝弘

専門 社会科教育

研究
テーマ 地域のよさを生かした
社会科の授業の構想・実践

子どもたちを「持続可能な社会の創り手」に育てるために、社会科の授業の「何を」「どのように」していけばいいのか、一緒に考えていきましょう。



准教授 平中 宏典

専門 理科教育

研究
テーマ ICTを活用した授業づくりと
システム構築/地域地質を
活かした地学教育

教育工学・学習科学の視点で授業を見つめ、ICTを用いた授業やシステム活用のより良いあり方をともに考えていきましょう。



教授 宗形 潤子

専門 教育実践学

研究
テーマ 子どもの主体性、学びに関
する研究/生活科における
砂遊びについての研究

現場の先生方と子どもの学びや授業について一緒に悩み、考え、よりよいものを目指しています。仲間となつて一緒に学びましょう。



教授 森本 明

専門 数学科教育

研究
テーマ 算数・数学の授業と
カリキュラムの構成

思考する楽しさを伝えたい。その実現には実践をふまえた教材や授業の研究が必要かつ重要だと考えています。



特任教授 柳沼 哲

専門 障害児病理

研究
テーマ 特別支援教育、
重複障害教育、
教育的ニーズ

教育的ニーズは、子どもと環境の相互作用により生起し、質・量ともに変化します。考え方や価値観を吟味する機会にしませんか。



講師 和田 恵

専門 発達障害学・発達心理学

研究
テーマ 発達障害のある児童の社会的
認知に関する研究

日常生活と地続きの教育の場において、障害のあるお子さんとどう関わるかを、心理・教育の観点から、一緒に考えていきましょう。

在学院生の声



授業デザインコース 2年

渡邊 沙絵

(福島大学人間発達文化学類卒 学部卒業生)

学部新卒の私にとって、大学院で現職院生と共に学ぶことは、貴重な機会であると感じています。特に、授業力の向上だけでなく、授業を参観する視点や子どもの学びを見取る視点、学級づくりに関する学びを深めることで、新たな気づきを得るとともに、教師として必要な知識を身に付けることができています。さらに、実習では、大学院で得た知識を活かし、授業参観や授業実践に取り組み、研究にご協力いただいています。また、算数科の授業づくりについて研究を進める中で、授業をすること自体にワクワクするようになりました。これは、先生方や院生との対話が、私自身の成長を大きく促してくれているからだと感じています。教師という職業に魅力を感じながら、充実した学びを続けることができています。



授業デザインコース 2年

吉田 亘

(棚倉町立棚倉小学校籍 現職派遣院生)

現職教育で取り組んでいたキャリア教育について深く追究し、その趣旨を生かした社会科の授業づくりをしたいと考え、大学院に進学しました。大学院では、先生方から専門的な知見や理論を学んだり、他校種の仲間と対話したりすることを通して、自分の授業を見つめ直し、子どもたちの社会参画意識が高まる授業の在り方をじっくり考えることができました。連携協力校では、児童一人一人の良さを生かす授業や児童の生活と授業の内容等が結びつくような地域教材を開発し、授業を行うことができました。

この2年間は、実践と省察を繰り返して研究を深めたり、学校課題の解決に向けて求められる自分の役割を考えたりしながら「教師としての力」を高める貴重な機会であると感じております。



ミドル・リーダー養成コース 2年

木村 千尋

(白河市立白河第一小学校籍 現職派遣院生)

これまで、先輩教員と子どもたちから多くのことを学び、教師として歩んできました。かつて憧れていた先輩方と同じ中堅教員となるにあたり、自分が今後担うべき役割や目指す姿を見つけないといけないという思いから、教職大学院進学を決めました。ミドル・リーダー養成コースでは、同じ志をもつ仲間と共に、ミドル・リーダーの役割や組織マネジメントについて学んでいます。連携協力校での実習では、若手教員が算数科の授業を通して、力量を形成し、成長していく姿を間近で見ながら、そのための先輩教員の役割やかかわり方について、理論と実践を往還しながら考え、学ぶことができています。2年間の教職大学院での貴重な学びや経験を、これからの自分の教師としての新たな歩みにつなげていきたいです。



特別支援教育コース 2年

脇坂 茉里

(福島県立石川支援学校籍 現職派遣院生)

本学の教職大学院の魅力は、現職のままで長期にわたる研修を受けることで、教員としての自己を見つめ直しながら専門性を高められることです。私は、特別支援学校の国語科の授業づくりについて、「伝え合う力」の育成をテーマに研究をしています。日々の講義では、各教育分野で専門的研究を進めている先生方から多様な知識を得るとともに、年代や校種の異なる院生との議論を重ねることで視野を広げ、学びを深めています。また、連携協力校では、県内特別支援学校の現状を踏まえた授業づくりについて省察を重ね、授業力の向上を目指しています。この2年間の学びは、私にとって大きな力となると感じており、今後とも常に学び続け、特別支援教育を担う教員として成長していきたいです。

福島大学 教職大学院Q & A

Q1

今までの大学院修士課程との違いは何ですか？

大きな違いは、学校現場を通して高度な実践力を身につけることを目指していることです。

Q2

修士論文は書くのですか？

修士論文の提出は求めません。本研究科では、日頃の実践を理論的にみつめて省察した成果をまとめた実践報告書を作成します。

Q3

学校における実習はどの学校でやることになるのですか？

県北域内にある連携協力校(附属学校を含む)で実習を行います。

Q4

プロジェクト研究は、小・中・高・特別支援等の校種や教科などは、自分の希望するもので取り組めるのでしょうか？

はい。それぞれのコースにおいて、自身が希望する校種、教科での実施が可能です。実施テーマについては、実習校とのすり合わせが必要となります。

Q5

教職大学院の施設や設備等、学習環境はどのようになっていますか？

大学ではPCタブレット、プロジェクター等のICT環境が整備された共同スペースがあり、専用の机が貸与されます。もちろん学内の図書館等も利用可能です。

Q6

教職大学院に入学する前や在学中に教員採用試験に合格した場合、採用名簿登録期間を延長してもらえますか？

福島県教育委員会では申請により、在学期間(2年間)について採用名簿搭載期間の延長が可能です。手続き等は教育委員会にお問い合わせください。

取得できる学位・免許

教職修士(専門職)の学位が2年間の課程で取得できます。
以下の専修免許状が取得できます。

幼稚園教諭専修免許状

小学校教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)

高等学校教諭専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語
農業、工業、商業、水産、福祉)

特別支援学校教諭専修免許状 ※特別支援教育コースのみ

養護教諭専修免許状

栄養教諭専修免許状

募集概要

※内容は予定であり変更する場合があります

求める学生像(アドミッションポリシーから)

地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する「教員のミドル・リーダー」をめざす学生を求めます。

募集人数と選抜方法

詳細は、大学webサイト及び学生募集要項をご覧ください。

募集人数 12名

出願資格 大学を卒業した者(卒業見込みの者)で、教員免許状(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・養護・栄養の普通免許状一種)を取得(見込みを含む)している方

選抜方法

一般入試

対象：出願資格を有している方

検査項目：研究計画、成績証明書、学習履歴レポート、小論文および面接

現職教員
特別入試

対象：出願資格を有し、出願時まで3年以上の教職経験及び出願年度内に勤務実績のある方

検査項目：研究計画、実践記録レポートおよび面接

福島大学生
特別
入試

対象：出願資格を有し、以下に該当する方

- 福島大学を卒業見込みである
- 卒業研究指導教員による推薦を得ている
- 実践研究の課題が明確で卒業後の入学を確約できる

検査項目：研究計画、成績証明書、学習履歴レポート、推薦書および面接

学 費

入学科 282,000円

授業料 535,800円(年額)

※福島県教育委員会派遣の方は入学科の半額を免除します。

令和6年度から奨学金の返還免除制度が始まっています。教職大学院を修了した翌年度に正規教員となった方は、第一種奨学金の貸与の返還が免除されます。

お問い合わせ



人間発達文化学類 支援室

〒960-1296 福島市金谷川1番地

TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181